

発行責任者
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会
湘南支部長 清崎 忠園
平塚市豊原町 23 - 14
Tel(Fax) : 0463-31-6718

隊友

湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋!



【先進7カ国首脳会議 (G7広島サミット)】

湘南支部長 清崎忠園

新聞等各種マスコミによる世界情勢の報道に、筆者にはなぜこのような状態となるのかと国際関係の複雑さに魔訶不思議で何を信用してよいのやら皆目理解できないニュースに日々巻き込まれている。

国際関係の摩訶不思議、変わり身の早さ

国際関係の摩訶不思議さや変わり身の早さの最近の一例を挙げてみる。

○フィリピン

反米親中であつたフィリピンのドゥテルテ前大統領が中国の海洋進出などの脅威に危機感を強め、やっと退任直前昨年3月に米比大規模な合同軍事演習を実施した。同年6月に就任したマルコス大統領は米軍重視の政策に大きく転換し、米比相互防衛条約に基づき、フィリピン国内で米軍に使用を認める基地を5か所から9か所に増やすことに合意し、中国の南・東シナ海における覇権的な海洋進出に対する防衛協力強化を図つた。

○ソロモン諸島

ソロモン諸島は2019年台湾と断交、中国と国交を樹立し、昨年4月中国軍の駐留を可能にする安全保障協定を締結。中国によるインフラ投資強化の成功か。ソロモン諸島に米大使館を1990年閉鎖以来再開設。

○EU(欧州連合)の主要国中国を訪問

ドイツのシュルツ首相、ミシェルEU大統領、スペインのサンチェス首相、フランスのマクロン大統領そしてフォンデアライエンEU欧州委員長は中国を訪問している。その中で仏国マクロン大統領は中国寄りとなりその影響が懸念されている。中国訪問中問題発言が多発。「欧州は台湾問題で米中いざいざにも追従すべきではない」先進7か国(G7)のキーマンバーでかつ国連安保理の常任理事国という立場の首相、更にNATO31か国

の原加盟国17国の1国でもあるマクロン首相の発言は主要国から多くの非難が出しており、G7を控え岸田首相の議長としての采配に全世界が注目する事態となるであろう。EUでは中国重視のマクロン外交に不安が出ている。

○フォンデアライエンEU欧州委員長

マクロン氏と共に訪中したEU欧州委員長は、台湾問題をめぐって習近平中国国家主席と応酬となったとある。即ちマクロン氏とは異なる立場となっている。

○チャールズ英国王

3月29日チャールズ英国王夫妻がドイツを訪問。その折のシュタインマイヤー独大統領主催の晩さん会で、ロシアによるウクライナ侵略を「いわれのない侵略」と非難。「我々は自由と主権を守るためにウクライナと団結する」と述べ、ウクライナを支持する姿勢を強調した。国王は初の外遊で国際政治に踏み込んだ発言を公の場で言い、エリザベス女王の政治的発言を避けてきた姿勢とは異なると見られている。

○NATO(北大西洋条約機構)

NATOのストルテンベルグ事務総長が来日し、2月2日日本とNATOが安全保障面で連携を強めていくことになった。共同声明で、インド太平洋地域と欧州の安全保障が密接に関連していると、「信頼できる必然のパートナー」として、日本とNATOの協力強化を確認している。

○4月4日フィンランドNATOに正式加盟

NATOの加盟国数は31か国となる。フィンランドはロシアとは1300キロ国境で接し人口は550万人。2度ソ連に侵略されて長く外交軍事上は中立路線(フィンランド化)をとっていたが、ロシアのウクライナ侵略を受けて方針を転換した。

フィンランドはミサイル装備やサイバー防衛、空域監視などの面で高い能力を

有すると報じられている。NATOにとって大きな対露防衛戦力となる。

○露の核配備

4月2日の報道によれば、「露中は3月21日の首脳会談後の共同声明で、全核保有国に対し国外に核兵器を配備しない様求めた。この数日後にロシアはペラルーシへの配備方針を表明した。」誠に「舌の根も乾かぬ内」の無責任な共同声明違反は中露の間の姿勢を呈している。信用は全くできない両国である。

G7広島サミットでの議長岸田総理の問われる手腕

4月18日に閉幕したG7外相会合の共同声明が「法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を堅持する」を初めて明記したと報じられた。ウクライナ侵略のロシア、台湾併呑を狙う中国の武力をはじめ力による現状変更を認めないG7の強い意志を表明したものである。上述のマクロン仏大統領の「欧州は米中いざいざにも追従すべきでない」の発言とG7外相会合に参加のコロナ仏外相の意思表示がどのようなものになるのか懸念されていたが、共同声明を見る限り水面下では正されたのかもしれない。しかしながら、5月のG7広島サミットの共同声明にどのような変化が生じるのか議長岸田総理の手腕が問われるところである。

『プアニューギニアからの便り』

令和4年度・東部ニューギニア戦死者遺骨収集現地調査(第4次)に参加して(第二回)

支部理事役 萩原洋聡

【派遣に至った背景・経緯】

昨年2月末にロシアがウクライナに侵攻してから1年を過ぎるも、未だに継続・膠着状態にあります。そもそも国連の責任ある常任理事国の一大国でありながら俄かには信じられない判断と行為に生涯を自衛隊で安全保障に関わってき

た一人としては何とも言えない虚無感、無力感を覚えました。「如何に先端科学技術等が発達した地球上に在りながら、実際にやっている行為は石器時代の争いレベルから何も進化してないのではないか!？」という嘆きでした。

自分一人でこの世の在り様を変えられとは思っていません。が、「ならば、石器時代と現代で、人間として変わっていないものは何なのだろう?」と想いを巡らせている時に、あるメルマガで「東京EXTRAMURAL100」という、小田原城から江の島経由、明治神宮外苑までの100kmを26時間以内に歩き切るといふイベントを知りました。ふと閃いたのは、人類の不変(普遍)な機能として、石器時代も今も変わらない尺度・原点としての『歩く速度』を再確認・体験検証してみようと思えました。そこで全コースを3回に分けて事前踏査して臨んだところ、6か所のチェックポイント・休憩を含めて100kmを21時間19分で歩き切ることができました。

自らの体験・体感として理解したこと、私は、私は1kmを約1400歩・15分で歩く速度とその疲労感でした。藤沢大船の一駅間を東海道線の列車は5分で走りますが、私の足では1時間かかります。東海道新幹線は、小田原・東京間(100km)を約30分で走りますから、その速度差が石器時代と今日の技術差・便利さなのだと感じます。でも、移動手段だけでもそれだけの便利さを得ながら人類は、特に、我が国は真の意味で「心豊か」になったのでしょうか?SDGsがもてはやされていますが、それを現にするための具体的な社会の姿は一体どのようなものなのでしょうか? 私が防大3学年の冬季訓練で、硫黄島研修(片道が空路・片道が海路)で、入間基地を離陸して硫黄島に着陸したその朝、駐機場拡張工事の掘削工事中に御遺骨が出たという場面に接しました。

以来、戦没者の遺骨収集が進んでいないことを意識していたこともあり、海自・横須賀地方総監部・施設課長、厚木管理隊長勤務時代に硫黄島の施設整備に関わり、硫黄島に赴く際は、天山慰霊碑、摺鉢山山頂の日米将兵慰霊碑への献水・拝礼と、拙いながらも「ふるさと」・「Dunny Boy」をフルートを吹いて慰霊するようにしてきました。

硫黄島の戦い当時も、今のウクライナでも、明日を生きたかったのに、それが叶わなかった幾多の命のことを想いながら過ごした令和4年の末、隊友会からの戦没者遺骨収集事業・東部ニューギニア派遣の意向調査のメールが届き、派遣を希望（熱望）した次第です。派遣の決定通知を受けたのは年明けて令和5年1月17日、ちょうど舞鶴出張の機会を活かして、舞鶴

引き揚げ記念館を見学している時でした。その展示を拝見しながら、海外戦没者（概数）240万柱のうち、現時点でも、112万4千柱もの未収容遺骨（概数）が在ることを（恥ずかしながら）知り、何としても一柱でも多く収集を急がねばならないと自覚しました。

令和4年度・東部ニューギニア戦没者遺骨収集現地調査派遣（第4次）の派遣期間は、3月6日から15日までの10日間。うち、ウエアクのブレンディ村の埋葬地での試掘は2日間の計画でした。東部ニューギニア戦域には12万7600柱の戦没者のうち、7万6千余柱の未収容遺骨に対して、2日間という限られた試掘機会を寸秒も無駄にしないために、また、今もジャングルに野晒しのままの英霊に対する慰霊も含めて、出国までの1か月半で準備すべきものは何かを考え、思いついたことから手当たり次第に取り掛かりました。

まず、パプアニューギニアという国と地理・気候、太平洋戦争におけるニューギニアの戦いの全貌（戦史等）といった基本事項の把握。試掘において対面することになるであろう御遺骨に対する作法を含めた接し方。「骨・歯牙」そのものについての基礎知識の習得等々です。特に、「試掘予定場所（埋葬地）」は、最寄りの村落からジャングルの中を1時間あまりかけて歩く」とあり、熱帯雨林環境下を行動するための

足回り、衣類、防虫対策等々、未体験ゾーンをあれこれ想像しながら購入・準備を継続しました。また、私以降、本件に従事する派遣者が少しでもスムーズに準備し、かつ、不安無く現地に向かうためにも、可能な限り詳細な記録（写真・動画を活用）することを意識しました。

次回、戦没者遺骨収取事業の概要、ニューギニアの戦いの概要を述べてから、出国してシンガポールを経由、パプアニューギニアの首都・ポートモレスビーまでの道中・空中で見聞したこと、考えたことなどをお伝えしたいと思います。次号へつづく

令和5年度隊友会湘南支部総会及び防衛講演会を開催

隊友会湘南支部は、4月8日（土）に藤沢市商工会館ミナパークにて令和5年度支部総会、防衛講演会を開催した。（出席者各30名）

総会は、国家斉唱、昨年度逝去された会員に対する黙祷、叙勲者紹介、支部長挨拶のあと田中理事役を議長へ選出し議事に入り「令和4年度支部活動・同決算」報告がなされた。

次いで、「平成5年度支部活動計画・同予算」及び「支部役員改選」の3議案が提議され、それぞれ満場一致で承認された。表彰式では、出席の泉川博及び喜瀬美恵子特別会員の感謝状、田中理事役への表彰がそれぞれ行われた。

総会終了後、一般社団法人 日本海事協会 高橋方彦氏による防衛講演会が「日本海事協会（船級組織）と官公庁船事業について」と題して行われた。講師は「日本海事協会（NK）」誕生の歴史的背景やグローバルな時代の流れ、「NK官公庁船事業部」の設立経緯、そして最近の「NK官公庁船事業部の取り組み」について柔らかい語り口で大変分かり易く説明された。

本講話は日本と世界を結ぶ海上物流ルートを担う海事産業の重要性に加え、最近の日本の造船業界が置かれている厳しい現状と、正にその日本の造船業界を救うために誕生したNK官公庁事業部が様々な新事業・新サービスにチャレンジしている説明に、日本の造船業界や海上自衛隊の艦艇の将来に対して目からうろこが落

ちるような内容に大いに勇気づけられた。船級協会の歴史は今から400年以上も前にイギリス東インド会社にはじまり、未発達な航海技術で世界の荒海へ挑戦した大航海時代を経て、イギリス、フランス、イタリア、アメリカなどに設立され、1899年日本に「帝国海事協会」が誕生した。そして、その後、船級協会を取り巻く業界が増大するにつれて、船級協会の意義と役割もどんどん大きくなり、現在は国際船級協会連合（IACS）が世界の船級協会を統合化し、各国船級協会規則の統一が進められている。一方、日本では戦後1946年「日本海事協会」と改称され現在に至っている。

設立当初の帝国海事協会がその当時の日本においていかに重要で大きな役割を担っていたかを象徴するエピソードが紹介された。それは設立後初の臨時大会（1902年）での洪沢栄一氏の演説（論点）でした。この頃の時代背景を調べて驚いたことに、その演説は日露戦争（1904〜1905）勃発の2年前という激動の時代に実施された。その演説の中でも次の2点は今でもまったく色あせていない。

●「我が国にとつての海事の重要性は論を持たないが、三百年の鎖国の影響もあって、海事の進歩は鈍く、その地位も低い。帝国海事協会は自らの隆盛をもって海事の地位向上に努めてもらいたい。」

●「武事に関する海事と商業に関する海事は国を守る上での両論であり、連携が必要であるが現在はずいぶん口をばさむことはない。海軍軍人が商業に口をはさむことはないし、また、その逆もない。海事協会にはその間に立つて両社の関係を取り持つてもらいたい。」

「洪沢栄一」は大河ドラマにもなり、間もなく一万円札にもなる日本の偉大な実業家です。この2点の素晴らしさは、講師が「自由で開かれたインド太平洋」というビジョンの下、海洋安全保障及び海上安全の確保に貢献するため、わが国企業の官公庁船分野の海外展開をサポートする気持ちを強くするところにあると強調された。

そうして日本海事協会の中に、2019年4月事業開発本部内に「NK官公庁船事業室」を発足させ、2014年4月には会長直下に改編されて、2022年4月から事業本部に移行された。

NK官公庁船事業部の基本戦略は、わが国の安全保障および海上安全に資することを念頭に①NK官公庁船事業の強化・拡大を図る。

②防衛省等の国内官公庁向けサービスの提供、③防衛装備を含む官公庁船の海外移転向けサービスであり、未来志向の成長著しいNK事業本部の将来戦略は実に頼もしい。

最近、海外装備移転の実現に向けて「自由で開かれたインド太平洋」というビジョンの下、海洋安全保障及び海上安全の確保に貢献している。

講演会後の講師を囲んでの小規模な懇親会では、高橋様のお人柄に触れ、皆さん初対面とは思えないほど多くの話題で大いに盛り上がり、極めて有意義な意見交換会が終わり、令和5年度総会の一連の行事が無事終了した。

「当選おめでとうござります」

支部特別会員の当選を、支部会員一同からお慶びを申し上げます。（順不同・敬称略）

【藤沢市】松長泰幸、市川和広
【寒川町】山本 哲
（支部長 清崎忠園）

新入会員のお知らせ（敬称略）

正会員
・ 渡辺一正 元陸上自衛隊

「支部の予定」

・ 05/13（土） 第2回支部理事役会
・ 05/22（月） 5月隊友紙発送
・ 06/10（土） 第3回支部理事役会
・ 06/中旬 第1回名所旧跡探勝
・ 06/23（金） 6月隊友紙発送
・ 07/08（土） 第4回支部理事役会
・ 07/24（月） 7月隊友紙発送